

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 小国町立小国小学校

1. 学習指導案

プログラム	No.8 「わたしたちのまちに言葉の贈り物」
単元名 (全17時間)	小国町の未来について考えよう ～住みよい町づくりをめざして～
学習のねらい	小国町の町づくりに関して自ら課題を設定し、体験学習や地域の方から情報を集め、整理・分析して、ポスターやプレゼンテーション等の方法でまとめ・表現することができる。
学習内容	1 小国町の町づくりに関して自らの課題を設定する。 2 体験学習や講話・インタビューを通して情報を収集し、「景観」という視点を取り入れながら、整理・分析する。 3 ポスターやプレゼンテーション等の方法でまとめる。 4 まとめたことを、全校生や地域の方に発信する。
参考資料	参考資料：やまがた景観物語100
準備品	準備品：タブレット・PC・デジタルカメラ
実施場所等	実施場所：小国小学校・小国町温身平・天狗橋・大銀杏

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	学習活動について知り、自分の課題を設定する。	今後の学習について見通しをもたせる。	自らの課題を見つけ、意欲的に学習に取り組んでいるか。
2	これまでの学習を想起し、課題についてどのような方法で調査するか、見通しをもつ。	調査方法について具体的に提示する。	
3～7	課題についての調べ学習を行う。(体験学習・講話・インタビュー・参考資料やインターネット等による情報収集)	調べ学習の方法についての具体的な例を示しながら活動に取り組ませる。「景観」という視点を与える。	自らの課題を解決するための調査方法を見出し、活動に取り組んでいるか。
8～12	調べたことをもとに、タブレットを活用して情報を分析・整理してまとめる。	分析・整理の仕方等を指導する。	自らの課題を解決するための情報を集め、整理・分析して、取り組みを考えているか。
13～15	前時までにまとめたことを全校生や地域の方に知らせるための資料を作成する。	分かりやすい資料の提示の仕方や話し方等について指導する。	聞き手に伝わる方法でまとめ・表現することができるか。

16	発表会	相手に伝わる表現を意識させて発表させる。	
17	まとめ・ふりかえり	本学習を通して学んだこと、身に付けた力等についてふり返しを行い、これまでの学習をまとめる。	地域の課題について、探究的に学習する方法やものの見方・考え方を身に付けることができたか。

<留意点>

- ・子供の主体的な学びを促すために、1人1人に町づくりに関する課題を設定させる。
- ・体験学習では、安全面に十分留意する。

2. 事業実施報告書詳細

学校名 小国町立小国小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
1	学校	これからの学習の流れの説明。「景観」や小国町のよさについてアンケートを実施する。		活動に対して楽しみだと感じるものの、小国町のよさを実感している児童は7割程度にとどまる。
1	学校	「景観」という言葉の意味、地域の眺望景観やまちなみ景観、それらの保全活動をしている人々の取り組みについての説明を聞く。		県内の美しい景観に感動していた。また、自分たちの町の景観づくりについての取り組みについて知り、景観についての興味関心が高まった。
3	天狗橋 温身平	アテンドミーティングの白い森案内人によるガイドで、天狗橋や温身平について、小国町の美しい森林を観光資源として生かしている地域の方々の取り組みを学ぶ。	 	天狗橋からみえる河川の美しさ、温身平の森林の豊かさを実際に五感で味わい、小国町の新たな良さに気付くことができた。

8	学校	体験したことや資料から調べたことをもとにタブレットを活用して情報を整理する。 学習発表会で全校生や地域の方に知らせるための資料や内容を作成 ・発表の準備をする。	 	景観全般についての説明、大銀杏の歴史、温身平の森林セラピー効果についてグループに分かれ、それぞれが伝えたいことをプレゼンテーションや劇・クイズ形式で紹介した。 参観している人に何を伝えたいのかを自分達で話し合い、内容を決定して発表した。
1	学校	学習発表会で全校生や保護者・地域の方へこれまで学習してきたことを発信する。		
1	学校	これまでの学習をまとめ、本学習を通して学んだこと、身に付けた力について振り返る。		今まで気が付かなかった小国町のよさに気付くことができた、景観のすばらしさ、自然の豊かさを未来へつないでいきたいという思いを強くしていた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

子供たちは、天狗橋・温身平での体験学習で初めて「景観」という言葉を知り、景観という視点で自然の美しさを捉えることができたので、さらに景観について実感を伴って理解させるために、市野々地区の大銀杏での体験学習を実施した。また、自分が美しいと思う景観をタブレットで撮影し、感想を述べ合うことで、その良さを味わう体験活動を取り入れた。

(2) 実施にあたり苦勞した点

その場所の一番美しい時期に体験学習を計画・実施することが苦勞した。

(3) 児童の反応

初めは、「小国町には自然しかない」と否定的な見方をする児童が多かったが、学習を進めていく中で、町の自然に対する見方が変わっていった。児童の振り返りには「小国町の美しい景色を未来に残していきたい。」「ごみ拾いや植樹などの取り組みを続け、小国町にある自然をこれからも守り続けたい。」「景観のよさをアピールすることで、県内外や海外からもっとたくさんの人に小国町に足を運んでもらいたい。」といった記述が多く見られた。自分たちの町のよさを再確認し、未来について考えることができるようになり、自分達の住む町への郷土愛が深まった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

今回の学習を通して、指導者も「景観」という視点を新たにもつことができた。それらを整備している方々がいることを知り、ゲストティーチャーの講話を通してその思いを知ることで、地域教材・人材の幅を広げることができた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

小国町では、総合的な学習の時間に「白い森学習」として保小中高で連携したプログラムを作成・実施している。来年度中学校へ進学した時に、今回の学習が生かされるように、情報共有と引き継ぎを行っていきたい。